

## セーブ・ザ・チルドレン まなび・体験ファンド 2023年募集および採択の状況

### まなび・体験ファンドとは

子ども期に、学習に限定されない幅広い「まなび」や豊かな体験活動を経験することは、子どもの主体性や社会性を高めたり、心身を育んだり、自己肯定感を培う上で重要です。しかし今、長引く新型コロナウイルス感染症の影響や相対的貧困の拡大によって、子どもが日常から離れた場で未知の体験をしたり、さまざまな大人や友だちと触れ合い、多様な人間関係を持ったりする機会が減っています。特に、経済的に困難な世帯などにおいてはその傾向が際立っており、今「体験格差」がより顕著になっています。

このような状況を踏まえ、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもに向けてまなび・体験の機会を提供する地域の非営利団体を応援する「セーブ・ザ・チルドレン まなび・体験ファンド」を2023年から開始しました。本ファンドを通じて、子どもたちが夏休みの期間に遊びや活動、新しいもの、未知のものに触れたり、まなんだりする機会をより多く実現し、子どもの育ち、まなび、遊び、参加などの基本的な権利が守られることを目指しています。

### ファンド概要

日本国内の子どもたちに向けてまなび・体験の機会づくりに取り組んでいる地域の非営利団体を対象に、事業実施のための資金助成と、団体の活動において関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、子どもにとって安心・安全な活動を進めるための「子どものセーフガーディング研修<sup>1</sup>」を行います。

### 対象となる活動

子どもが遊び・活動や、新しいもの・未知のものに触れたり、まなんだりすることで、子どもの権利保障が期待される事業を募集します。ここでの「まなび・体験」は、広い意味で使っており、「学習」の場に限定しません。その中でも特に、以下の取り組みを重視します。

- 子どもが保護者の経済状況、障害の有無、言語的障壁などによって参加の可能性を阻まれることなく、平等にまなび・体験の機会を得られること
- 子どもが主体となって企画を考え実践する活動や、子どもの意見が聴かれること

<sup>1</sup> [質の高い組織と事業づくり「子どものセーフガーディング」 | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンについて | セーブ・ザ・チルドレンとは | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン \(https://www.savechildren.or.jp/about\\_sc/quality1.html\)](https://www.savechildren.or.jp/about_sc/quality1.html)

## 2023 年の実績

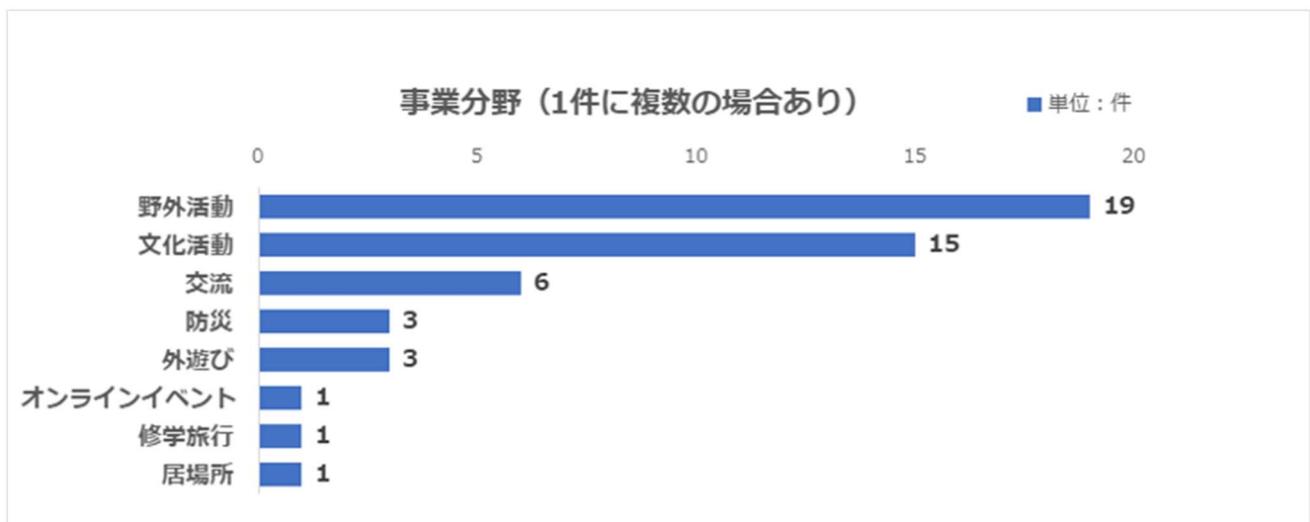
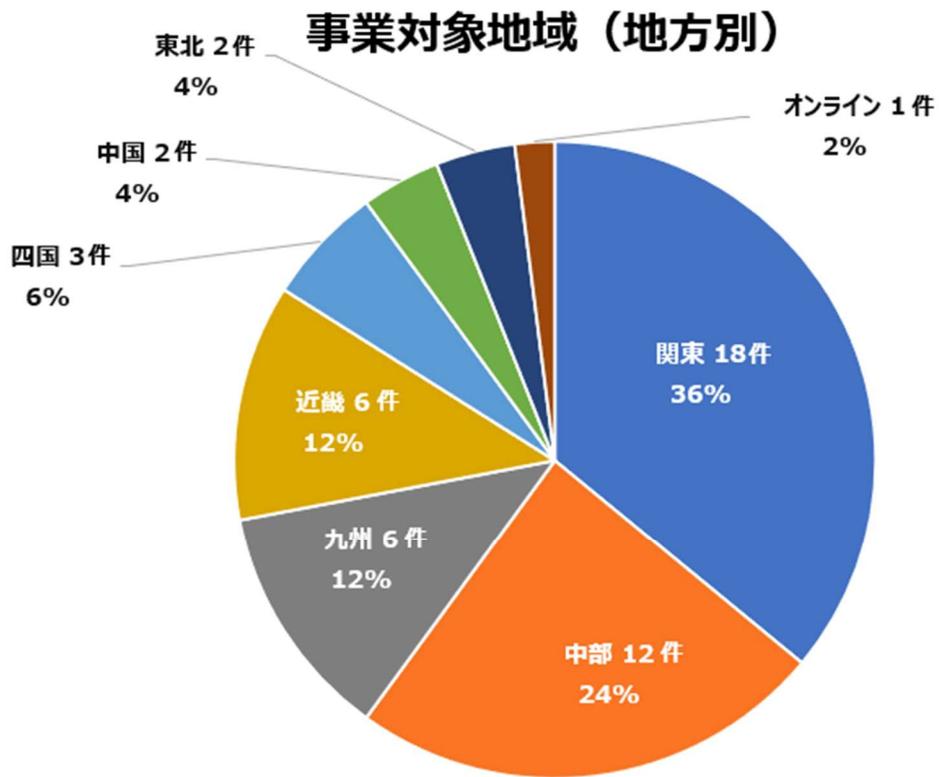
- 助成事業の実施期間： 2023 年 7 月 1 日～9 月 30 日
- 助成対象団体： 特定非営利活動法人（NPO 法人、認証・認定）、一般法人（非営利型）、公益法人、社会福祉法人、任意団体などの非営利団体
- 助成金額： 1 案件 50 万円～150 万円
- 選考過程： 6 月にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン内部の審査員による書類審査および審査会を行いました。
- 採択団体： 6 団体（ABC/五十音順）※事業概要、採択理由などについては文末の表をご参照ください。
  - Minami こども教室実行委員会
  - 特定非営利活動法人 ウイズアイ
  - NPO 法人 オルフド
  - 特定非営利活動法人 柏倉家文化村
  - NPO 法人 きらり水源村
  - 特定非営利活動法人 ふじこども自然学校

## 2023 年申請案件全体の傾向

2023 年 4 月 20 日～5 月 31 日の間の申請期間に、全国から 42 件の申請がありました。事業分野別に見ると、自然・野外体験の申請が半数近くを占めたものの、伝統行事、オンラインイベント、防災、芸術体験など、多彩な申請がありました。

安全上の配慮や感染症予防対策はほとんどの団体であったものの、子どもの権利を日常的に意識して活動していることが読み取れる申請は多くありませんでした。

日頃の活動の場を離れてまなび・体験の事業を行おうとする際は、さまざまなリスクが伴います。安全確保に留まらず、関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、安心・安全な活動と運営を目指す組織的取り組みを「子どものセーフガーディング」と言います。このファンドを通じて、より多くの団体がこの取り組みに触れ、活動の場に取り入れていただけることを願ってやみません。



## 審査講評

各団体の申請から、子どものまなび・体験を保障しようとする意欲、この夏を子どもたちと豊かに過ごしたいという団体の思いが伝わってきました。セーブ・ザ・チルドレンが子どもの貧困問題解決事業にて「2023年 夏休み 子どもの食 応援ボックス」の申込者に実施したアンケート<sup>2</sup>でも、海水浴や遊園地、博物館へ行く、観劇など、長期休暇中に子どもが経験するような余暇レジャーの体験について、今年の夏休みに「経済的な理由からできない」と、65.3%が回答しています。さまざまな背景によって子どものまなび・体験の機会が制約を受ける可能性がある中、全国各地から多数の申請があったこと自体、非常に心強い結果だと感じました。

本ファンドは単発・短期間の事業助成ではありますが、一過性のまなび・体験に留まらず、その先を見据えたプログラム構成となっている申請や、日頃から取り組んでいる活動から課題が明確に示されている申請が採択に至る傾向がありました。他方で、なぜ本ファンドに申請するか、事業の意義、そして事業に参加する子どもたちにとってどのような影響があるかが見えにくかった申請は、採択に至りませんでした。

本ファンドの重視する機会の平等に関しては、金額的な配慮を記載している申請や、オンラインのため誰でも参加しやすいという点を記載している申請が多くありました。さらに、事業に参加したくとも情報が届かない、あるいは参加に際して何らかの障壁がある層への訴求方法が予定されていること、また他の子どもたちとの関係性や活動の環境により、意見を言い出しづらいといったことがないよう配慮があることも重要だと考えますが、そのような工夫の見られた申請は限定的でした。

加えて、子どもたちの声を真に生かそうとする団体であれば、大人が子どもへ与える影響を自覚した上で、子どもたちの意見をどのように受け止め、対話するかということまで考えることが期待されますが、そこまで踏み込んでいる申請はほとんどありませんでした。子ども参加を実現するためには、子どもの安心・安全を確保した上で、子どもの声・意見が事業に反映されていく環境づくりがあることが望まれます。このことは、子どもの権利保障を推進するセーブ・ザ・チルドレンが留意する点でもあり、今後この観点十分に考えられた事業がより増えることを期待しています。

<sup>2</sup> セーブ・ザ・チルドレン 2023年「夏休み 子どもの食 応援ボックス」申込者アンケート結果

<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/report-foodboxsummer2023.pdf>

助成先団体・事業 採択理由一覧 (ABC/五十音順)

|        |   |
|--------|---|
| 事業名    | Minami こども教室 ユースキャンプ  |
| 団体名    | Minami こども教室実行委員会   |
| 対象地域   | 大阪府貝塚市  |
| 事業概要   | これまで社会教育や文化的活動を実施する中で、フードパントリーで食材を配布するだけでは子どもたちが「支援慣れ」してしまうのではないかと、という危惧から企画された申請でした。本申請の目的は農業体験や飯盒炊飯を通して子どもたちの食育活動をする事、自然の中で「語りの時間」を設けることで自己発見と開示の機会をつくることです。また、外国につながる若者たちが、キャリア形成についてピア（仲間）の意見を聞いたり、悩みを共有したりできる「語りの時間」を設けています。 |
| 事業期間   | 2023年8月22日～8月23日  |
| 助成額    | 1,060,000円  |
| 選定ポイント | 本ファンドが目指す「さまざまな理由でまなび・体験の機会が得られにくい子どもたちに機会を平等に保障する」ことに照らして、外国ルーツを持つ子どもたちに特化している本事業は魅力的に映りました。さらに、アイデンティティの揺らぎ、ロールモデル不在などの課題を助成事業の中にも組み入れている所を評価しました。今夏の事業により単発の体験を楽しむだけでなく、次につながる事業であると考えます。                                      |

|        |   |
|--------|---|
| 事業名    | ウイズアイこどもフェス～こどものじかんをたのしもう～  |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 ウイズアイ   |
| 対象地域   | 東京都清瀬市  |
| 事業概要   | 申請団体の運営するつどいの広場や地域と連携し、子どもたちが絵具遊びをしたり、チンドン仮装パレードをしたりして楽しむ事業です。事業対象となるのは、幼稚園、保育園児が中心です。また、市内の各所で活動を行うことで「子どもの権利」を実現しようとする市民が増え、子どもの尊重につながる街づくりを目指しています。      |
| 事業期間   | 2023年7月31日～8月27日  |
| 助成額    | 927,000円  |
| 選定ポイント | 地域で長年にわたる保育事業の実績を持つ団体が、専門性と豊富な経験を背景に幼稚園、保育園世代の子どもを対象とした事業の実施を計画しています。安全な事業実施のために設備設置、避難経路の確認、看護師の配置なども行われています。加えて、子どもの権利を活動の対象者とともに学び、地域に広げようという姿勢が見受けられます。 |

|      |             |
|------|-------------|
| 事業名  | なつやすみ自然宿泊体験 |
| 団体名  | NPO法人 オルフルド |
| 対象地域 | 静岡県富士市      |

|        |   |
|--------|---|
| 事業概要   | 発達障害、知的障害、肢体不自由など何らかのハンディキャップを持つ子どもたちが、十分にその特性の理解や配慮、支援を得ながら、専門スタッフのもとで安心して自然に触れ合う体験を提供する事業です。その中で、自己の心身の状態に気づきかけとなることを目指しており、自分からヘルプを出すことの必要性や自分でできることの習得への意欲、やり切った時の達成感が自信につながるよう支援することを目的としています。 |
| 事業期間   | 2023年8月9日～8月10日   |
| 助成額    | 531,214円  |
| 選定ポイント | さまざまな障害のある子どもたちを対象として、日頃の活動からつながりを持ち、また専門的知識のあるスタッフがサポートしながらまなび・体験の機会を提供する事業は、なかなか実施できるものではありません。この事業を通して、虐待防止に留まらない子どものセーフガーディングの観点も取り入れた組織・事業づくりを進めることで、さらなる発展を期待したいです。                           |

|        |  |
|--------|--|
| 事業名    | みんなで作る「こどもの岡縁里（おかえり）」  |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 柏倉家文化村   |
| 対象地域   | 山形県中山町   |
| 事業概要   | 本事業は、10年以上空き家となっていた旧柏倉喜作家住宅「岡縁里」を利用して、子どもたちが夏休み中に安心して自由に過ごせる居場所をつくること、すでに始まっている「岡縁里」の高齢者の利用者などの多世代との交流、自然体験、地域の食文化を体験するなどの幅広いまなびの機会の提供を目的としています。居場所の提供に加えて、竹を使った遊具作り体験といった珍しい体験も含まれています。     |
| 事業期間   | 2023年7月25日～8月22日   |
| 助成額    | 617,000円   |
| 選定ポイント | 子どもたちが遊ぶ、新しい自分を発見する機会をつくるなど、遊ぶ、まなぶ、子どもの自主性を尊重するなど子どもの権利につながる企画が予定されています。多世代交流も、この団体ならではの特色ある側面です。また、行政などを通じて参加案内を広く送付することで、機会の平等の確保も期待できます。加えて、日頃から高齢者の対応をしていることもあり、バリアフリーなどの配慮があることも優れています。 |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 水源ファミリーキャンプ2023  |
| 団体名  | NPO法人 きらり水源村   |
| 対象地域 | 熊本県菊池市   |
| 事業概要 | 申請団体は、自然と親しむ機会が少なくなった子どもたちに、里山の自然と生業を知るきっかけとして、キャンプ事業・里山体験プログラムを実施しています。その経験も活かしながら、本事業ではシングルファミリーを対象とした野外体験事業「水源ファミリーキャンプ」を実施します。火起こしから食事づくり、川遊び、キャンプファイヤーなど、事業実施地の特性を活かした企画が盛り込まれています。 |
| 事業期間 | 2023年9月2日～9月3日   |
| 助成額  | 780,490円   |

|        |   |
|--------|---|
| 選定ポイント | 廃校となった中学校の木造校舎を残したいと願う地域住民が法人を設立して以降、子どもたちを巻き込んで都市農村交流の事業に取り組んできたことから、今後の展開も期待できます。子どもたちの意見も取り入れるための具体的な配慮がされています。また、他団体と協力しながら、まなび・体験の機会が得られにくい子どもがいる世帯へ募集案内を届ける工夫があります。 |
|--------|---|

|        |  |
|--------|--|
| 事業名    | 静岡の魅力発見こども旅  |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 ふじこども自然学校  |
| 対象地域   | 静岡県浜松市・掛川市   |
| 事業概要   | ひとり親家庭ではコロナ禍での収入減少や物価上昇等の影響により、経済格差が以前より拡大しています。また、学校においても未だに宿泊行事の縮小や給食の黙食などが続いており、集団生活・他者とのコミュニケーション機会が著しく制限された環境下にあります。以上の理由から、経済事情に関係なく、自然や動植物と触れ合う機会を提供することを目的として企画された申請です。事業では、バーベキューを含むキャンプ体験に加えて、フルーツ狩り体験や、遊覧船体験も含まれています。 |
| 事業期間   | 2023年9月23日～9月24日   |
| 助成額    | 1,098,140円   |
| 選定ポイント | ひとり親世帯において、夏のまなび・体験の中でもとりわけ自然体験の機会が得られにくい傾向があることを受け、その機会提供に取り組む事業です。宿泊を伴う野外活動における安全管理上の配慮や対策、スタッフ教育も充実しています。また、子どもの主体性を尊重する意識があることも評価できます。   |

以上